

申 請 調 書

【H30 年度教育改革推進事業経費・一般公募型】

整理番号	(教務委員会記入)		
	A1		
(プロジェクトメンバー)	所 属	氏 名	
代表者	システム工学部	曾我 真人	
共同者	システム工学部	西村 竜一	
	観光学部	尾久土 正己	
	学術情報センター	西川 明宏	
申請事業名	演劇的手法をとり入れたアクティブラーニングによる英語学習法の開発と実践	申請額	338 千円
事業の概要	英語学習において、演劇的手法を取り入れたアクティブラーニングを実践する。具体的には、申請代表者が後期に担当する専門選択科目の英語の授業において、授業期間後半の1月に、学生4名で1グループを形成し、場面設定と会話文を学生グループがオリジナリティを入れて創作する。このとき、4名それぞれの出番が少なくとも5回となるように学生が会話文を構成する。さらに、同授業の前半(10~12月)で学んだ英語表現の中から、各学生が少なくとも2~3表現を取り入れるものとする。構成した会話文をPPTにまとめ、発表会で、演劇風に演じる。発表会の様子は録画を行い、moodle上の授業ページにアップロードして、学生同士の相互評価を実施する。また、教員はルーブリックを取り入れて評価する。事後にアンケート調査を行い、効果を検証する。成果は、大学Eラーニング協議会総会などの学会で発表し、他大学の教員とも情報交換を行う。		
事業のキーワード	英語、英会話、演劇、アクティブラーニング、教育の質保証		
政府・文部科学省における提言や本学中期目標・中期計画との関連性	本学の中期目標・中期計画では、「4 その他の目標」の「(1) グローバル化に関する目標」の中で、「① 世界に通用するグローバル人材を育成するため、語学力の向上やコミュニケーション能力の向上を図る。」と記載している。本プロジェクトは、その計画に沿うものである。実践的な場面を想定し、英語での表現を実践することにより、世界に通用するグローバル人材の育成につながる。		
プロジェクトの必要性	仕事の場面で使える英会話力を身につけるためには、①場面に応じた表現のバリエーションを学ぶこと、②その表現を実際の場面を想定して使ってみること、の双方が必要である。このうち、①は適切な教科書を採用し、それを座学で学ぶことにより可能となる。実際、申請代表者は2年前まで①のみを中心に授業にて実践してきた。しかしながら、それを応用する機会が学生には無いため、本プロジェクトは必要である。		
プロジェクトの新規性・発展性	本プロジェクトは、(1)授業期間の前半に基礎的な表現のバリエーションを学んだ後に、後半にアクティブラーニングを取り入れて、学生の発想に基づく場面設定、会話文の創作、演劇仕立ての発表会を行うことにより、基礎的な表現を実践的な場面での応用に結び付けるところに新規性がある。さらに、(2)授業期間前半の知識の学習では筆記試験による評価を、後半のアクティブラーニングはルーブリックを取り入れた評価を取り入れることにより、総合的な英会話力の質保証を担保しながら進めるところにも新規性がある。		
プロジェクトの実現性・全学の教育改革への波及効果	授業期間の前半で、主に表現のバリエーションを知識として学習し、筆記試験により、その学習結果を評価する。さらに、授業期間の後半でアクティブラーニングにより、知識の実践的応用力の養成、創造性、演劇的手法を取り入れた演技力(英会話文を発話するときの抑揚やジェスチャ)の養成等を行うことにより、応用力を養い、発表会形式にルーブリックを取り入れた評価形式で評価を行う。この2段階の評価は、学習の質保証の観点からも重要であり、手本となる可能性があり、波及効果があると考えられる。		
外部資金等獲得の展望	本プロジェクトの結果を大学Eラーニング協議会の総会や教育学関連の学会などで発表を行い、この分野の研究者に本学での試みを周知した後、科研費等の外部資金募集に応募したいと考えている。申請代表者は、これまでに、主に教育学の分野で、基盤研究(B)を5件、萌芽研究を3件、奨励研究(A)を2件、それぞれ研究代表者としての獲得実績があるので、その経験を活かして、外部資金を獲得したいと考えている。		
特筆すべき事項	平成29年度にも、この申請プロジェクトのひな形となるアクティブラーニングを実験的に試行している。そのときは、授業期間前半の知識の学習と、後半のアクティブラーニングの関連が希薄であった。その反省から、このプロジェクトでは、関連性を深める内容としている。		

実 施 計 画 表

実施計画 (新規) ・ 継続)	経費区分	積算内訳
1. プロジェクトの推進の補助, アンケート結果の整理の補助としての学生への謝金	謝金	12千円 (1人×1千円×12時間, 1~2月)
2. 大学eラーニング協議会「総会・フォーラム2018」に参加し, プロジェクトの成果発表と情報収集を行う.	旅費	180千円 (山梨大学2泊 60千円×3人×1回=180千円)
3. アクティブラーニング関連の研修会での情報収集	旅費・参加費	61千円 (場所未定だが佐賀大学2泊を想定 (有料の場合の参加費を含む) : 61千円×1人×1回=61千円)
4. アクティブラーニング関連の研究会 (学会) ・セミナー等での情報収集	旅費・参加費	73千円 (場所未定だが東京, 日帰り1回+1泊1回, 合計2回を想定 (有料の場合の参加費を含む) : 30千円×1回+43千円×1回=73千円)
5. 語学教育, アクティブラーニング関連の書籍からの情報収集	消耗品費	書籍購入費 12千円 (3千円×4冊=12千円)

【記入要領】

1. 実施計画欄は、実施内容を箇条書きでなるべく詳細に記入し、その項目毎に積算内訳等を記入すること。
2. 経費区分：「人件費」「旅費」「謝金」「設備備品費(50万円以上の物品費)」「消耗品費(50万円以下の物品費)」「その他」
3. 積算内訳：実施計画の項目別に、経費区分の積算根拠を詳細に記入すること。
4. 設備備品費(50万円以上の物品費)を要求する際は、見積書を提出すること。